

遍先方へ掛け合ふたら、それ程迄の御執心なら買ふてお戴き申しまひよう。碌に光澤拭きも出来ては居まへんがといふ口上。さて買ふて内へ持て歸ると何分大きな佛檀で今までの佛檀入れへは這入りまへんワ。大工指物屋表具屋を呼んで、あの大きな佛檀を納めても未だ人の一人位は樂に這入れる様な立派な佛檀入れを拵えなはつた。いよ／＼ちやんと納めて見ると成程先方様が賣り惜しみしなはつた筈や。碌に光澤拭きも出来てない處か、鍔りの金物から、鈴、線香立てに到るまで眩しい様に光つておましたなア。あの當時の貴方はんの喜び様はどうだした。夜が明けたら佛檀の前でチャンなんまいだ。日が暮れたら佛檀と差向ひでチャンなんまいだ。チャン／＼なんまいだの一點張り。ア、是れで危いお寺詣りも止んだらしい。ヤレ／＼と思ふたのは東の間だつせ。ものゝ一月と經つか經たんのに、鳥渡今日は御開山の五百年忌や依てにちうては寺詣り。いやお大師さんの御命日や云ふてはお寺詣り。今日此頃の狀は何だす。大體貴方はんが移り氣過ぎます。」

「喧しい哩。そら何といふ事を云ひ腐る。信心でするお寺詣りと、汝の極道が一つになるかい。コレ汝とても矢張り血の通ふた人間ぢやらう。あのお花の心遣ひを可哀想とは思はんかい。お父つあん今日も若旦那はお歸りやムりまへん。妾しが不束な爲に彼のように毎日宅をお明けになります。嫁りまして未だ間も無いのに斯様な不調法を致しまして、お父つあんにも若旦那にも申し譯がムりませんと、どうぢや。まあ佛見たいな心とは彼の事ぢやらう。酷い汝の仕打を怨む事は更々無し。唯一

圖に自分の不調法とばかり思ひ込んで身を責める不愍さ。エ、これ嫁女何を云ふて呉れるぞい。あの極道奴の今日此頃の仕鱈は、何と云ふて詫つたら良えやらと俺しや貴女の顔見るたんびに、穴が有つたら這入り度いと思ふてるのぢやと云ふたら、まあお父つあん勿體ない。こんな不調法者を叱りもせず、その様に優しう仰有つて戴きますと、尙更鈍な自分が怨めしうムりますと云ふて、それは／＼俺しに氣兼ねをするのぢや。やれ可哀想に、あない日々氣を遣ふて、病ふて呉れにや良えがと思ふて居ると案の定、日に日に瘦せて顔の色が悪うなつて往くや無いかい。これ身體の具合が悪いのなら、どうぞ遠慮をせんと寢て下されと云ふても、いゝえ、別に何ともムりません。夜分もよう寢ますし、御飯も美味しうムりますと、笑ふて見せる不憐れ心根。俺しや何遍泣かされたか知れん哩。まあそうでも有らうが見た處顔の色が甚う良うない。無理して仕損じたら却て難儀ぢやどうぞ年寄りの云ふ事諾いて臥て下されと、強て云ふた處が左様ならお父つあん。お言葉に甘えまして暫く寢まして頂きますと、寢ついた限り枕が上がらんがナ。俺しの顔を見るたんびに、お父つあん若旦那はまだお歸りがムりまへんか。こんなむさ苦しい姿をお眼にかけまして申譯がムりまへんと氣兼ねする。あないに氣を遣ひ乍ら寢て居ては、養生にも何にも成る物ぢやない。實家へ歸して遣たら誰氣兼ねも無しに、ゆつくり保養が出来るぢやらうと思ふて、先方の親御に話をして歸らしたア。俺しやどんな事が有つても毎日一遍は見舞ひを缺かした事は無いけれど、汝は一遍も未だ